

2021年 5月 13日

## 臨床データ利用のお願い

海南病院では、以下の研究を実施しています。本研究の対象者に該当する可能性のある方で、カルテ情報を研究目的に利用されることをご希望されない場合などお問い合わせがありましたら、お手数ですが以下の問い合わせ先にご連絡ください。

### 1. 研究課題名

当院における経食道的超音波気管支鏡下穿刺吸引生検法（EUS-B-FNA）による肺癌診断の臨床的検討

### 2. 研究責任者

海南病院呼吸器内科 栗山満美子

### 3. 研究の概要

超音波気管支鏡は呼吸器疾患の診断において標準的な手技です。超音波気管支鏡下針生検（EBUS-TBNA）は気管・気管支周囲病変に対して、経気道的に超音波ガイド下に病変を確認しながら針穿刺を行う手技です。経食道的超音波気管支鏡下穿刺吸引生検法（EUS-B-FNA）はEBUS-TBNAに用いる超音波気管支鏡を用いて経食道的に縦隔周囲病変を穿刺する手技であり、EBUS-TBNAで到達困難な病変の生検が可能であり、またEBUS-TBNAを組み合わせることで診断率が向上するといった有用性が近年報告されています。しかし、主に肺癌を診療する呼吸器科医が食道からアプローチするのは一般的ではなく、EUS-B-FNAは本邦では広く普及していません。

そこで当院にて肺癌が疑われEUS-B-FNAを施行した患者さんについて、検査手技、診断率、合併症などの臨床的検討を行うことにしました。具体的に対象とするのは、2017年3月から2021年12月までの間に肺癌が疑われEUS-B-FNAを施行された方です。診療記録をもとに後方視的に検討することとしています。

EUS-B-FNAは肺癌診療において必要となる十分な組織採取が可能であり、対象となる病変や合併症の点からも有用性のある検査方法と考えられます。後方視的にEUS-B-FNAの臨床的検討を行うことは、研究対象者への不利益及び危険性も無く、また今後の肺癌診断を行う際に有用な情報が得られることが期待されます。

### 4. 研究方法

#### ①対象となる患者さん

2017年3月から2021年12月までの間に胸部CT検査で原発性肺癌が疑われEUS-B-

## FNA を施行した方

### ②使用する試料等

残余検体：使用なし（追加検査等はいりません）。

カルテ情報：年齢，性別，検査手法，合併症，および病理検査結果といったカルテ記事記載内容を使用します。

### 5. 個人情報の取扱い

貴重な患者さんの個人情報は、「個人情報保護法」及び「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」など各種法令に基づいて管理します。また，研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが，その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

### 6. 問い合わせ先・相談窓口

JA 愛知厚生連 海南病院 呼吸器内科 栗山満美子

電話：0567-65-2511（代表）